

平成23年9月  
台風第15号豪雨から10年これまでの歩み

# 大規模災害に備え防災行動計画

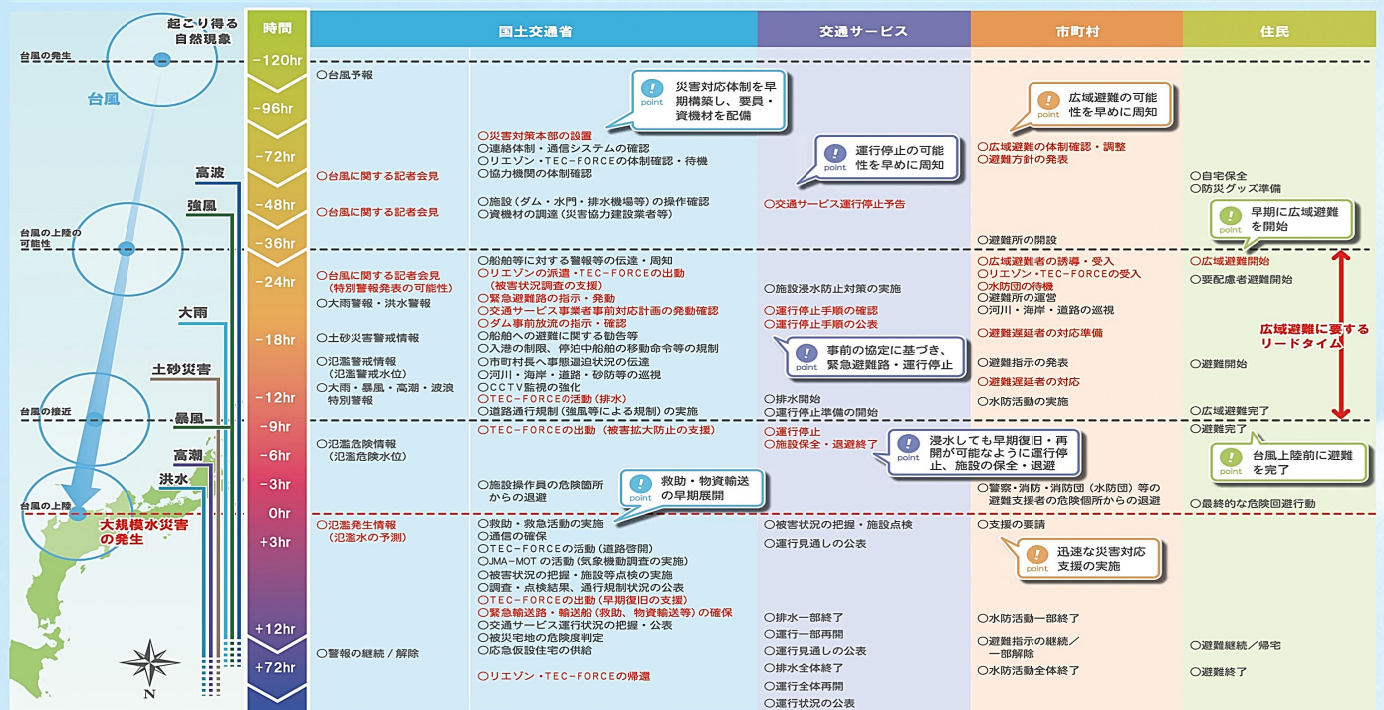
## 防災行動計画「タイムライン」とは？

<https://www.mlit.go.jp/river/bousai/timeline/>

タイムラインとは、災害の発生を前提に、防災関係機関が連携して災害時に発生する状況を予め想定し共有した上で、「いつ」、「誰が」、「何をするか」に着目して、防災行動とその実施主体を時系列で整理した計画です。防災行動計画ともいいます。

国、地方公共団体、企業、住民等が連携してタイムラインを策定することにより、災害時に連携した対応を行うことができます。

### 大規模水災害に関するタイムライン（防災行動計画）の流れ



\*タイムラインに関わる関係機関、防災行動は多岐にわたりますが、本イメージ図は国土交通省の対応や広域避難と交通サービスに着目して整理したものであり、時間軸の設定、対応の実施などにあたっては、今後の検討、調整が必要になります。また、赤字は特に対応強化の必要と考えられる項目です。

## 具体例(多治見市のタイムラインの概要)

[https://www.cbr.mlit.go.jp/shonai/bousai/tajimi\\_timeline/h29tajimi\\_timeline.html](https://www.cbr.mlit.go.jp/shonai/bousai/tajimi_timeline/h29tajimi_timeline.html)

台風に伴う大雨により発生する内水氾濫や、土岐川からの外水氾濫に備えたタイムラインを作成するため、平成27年度に国(事務所、気象台)、県、市、消防団、住民代表から構成される検討会を設置し、平成28年3月に「多治見市浸水タイムライン(H27年度版)」をとりまとめました。平成30年8月には、これまでの振り返り及び浸水対策実施に伴う多治見市における避難指示等の発令基準見直しを踏まえて、多治見市浸水タイムラインを見直し、平成30年度運用版としてとりまとめました。

### 多治見市浸水タイムラインの概要

- 伊勢湾台風と同じ進路の台風を想定
- 年超過確率1/100の降雨に伴い、内水氾濫後に土岐川の水位が上昇して決壊、最大浸水深3~5mとなる被災シナリオを想定
- 時系列に各機関の防災行動を整理

### タイムライン(平成30年度運用版)

- 台風接近に伴う気象情報、降雨や土岐川の水位、内水氾濫の状況に応じて、タイムラインレベル1(立ち上げ)~レベル5(緊急対応)を設定
- 各レベルでの防災行動と対応者(多治見市、国、県、県警察、消防団、自治会)を明示

多治見市浸水事前防災行動計画(タイムライン) (平成30年度運用版) **一部抜粋**

情報を活用・活用する主体

対応事項	行動項目	前京・住居対応	多治見市	消防団	多治見市	自治会
IV-0 移行基準【(高水)左岸ポンプ場排水水位が2.7m(避難準備・高齢者等避難開始基準)を超過し、今後の水位上昇が見込まれる場合						
27 防災対応計画の策定と共有【(急風決定)						
27-1 災害対策本部長の意思決定	27-1-1		○	○	○	○
27-2 内水排除活動の実施	27-2-1 27-2-2					
IV-2 移行基準【(高水)左岸ポンプ場の外水位が4.0mを超過し、今後の水位上昇が見込まれる場合						
28 内水氾濫対応の準備【(外水氾濫)に対して安全が確保できる範囲で実施】(実行)						
28-1 広域避難を考慮した災害対応支援(人)の現地到着の確認	28-1-1		○	○		
28-2 関係機関・部署への応援要請	28-2-1 28-2-2 28-2-3					

### タイムラインの効果

- (空振りを恐れない) 早めの避難情報等の発令
- 災害対応の明確化による職員の防災意識の向上
- 防災関係機関等との、「顔の見える関係性」の構築